

O.S.P

OSPREY
SPIRITUAL
PERFORMER

Journal

サイトフィッシングSpecial

無料
ご自由に
お取りください



鈴木隆之×相模湖
はじめての湖に
サイトフィッシングで挑む。



あの見えバスを釣る方法 教えます。

プロスタッフ27人が明かす
食わせの一撃!!



自分の釣りのレベルをトータルで上げる

**並木敏成の
サイト論**

O.S.Pプロスタッフが明かす

食わせの一撃!!

日本各地のO.S.Pプロスタッフが、自信を持ってご紹介する「食わせの一撃」。

これまで、苦汁をなめさせられてきたあの見えバスを、手にする手段はここにある!!

安達真秀

Mashu Adachi

護岸際に浮くバスはブリッツが有効

カズミ、北浦水系はマッディではありますが、護岸際をよく見るとバスが浮いていることがあります。とくにキンチャク周辺は狙いめ。そんな見えバスにボクがよく使うのがブリッツです。見えバスの真上にキャストし、いつもより速く「グリッ」と巻く。これで潜らせておいて、浮かせてあげます。着水した時点で逃げるバスは、基本的に相手にしません。

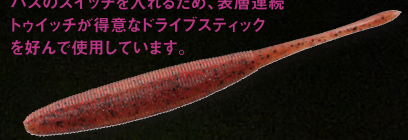


今井新

Shin Imai

少し離れたところからトゥイッチ

シャローがクリアアップすると、霞ヶ浦でもバスが見えます。ここで使用するのはドライブスティック4.5インチのノーシンカー。バスの進行方向の先にキャストし、1~2mぐらい離れたところからトゥイッチで気づかせます。バスのスイッチを入れるため、表層連続トゥイッチが得意なドライブスティックを好んで使用しています。



植田誠寛

Seikan Ueta

バンクに乗せてからのアプローチ

見えバスに対して、いきなり水に入れるのではなく、バンクに一度乗せてからアプローチ。これが最大のキモです。使うのはドライブクローラーの4.5インチ、もしくは5.5インチをワッキーで。回遊しているバスには、そのルート上にある岩などに隠しておき、見つけさせること。カラーはスカッパノンをよく使っています。

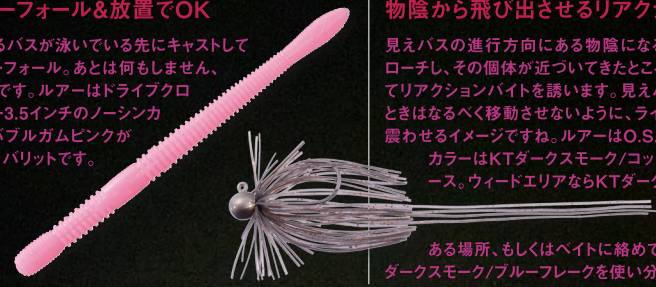


斎藤真也

Masaya Saito

フリーフォール&放置でOK

見えるバスが泳いでいる先にキャストしてフリーフォール。あとは何もしませんが、放置です。ルアーはドライブクローラー3.5インチのノーシンカー。バブルガムピンクがフェイバリットです。



高原 清

Kiyoshi Takabara

物陰から飛び出させるリアクション

見えバスの進行方向にある物陰になるべく静かにアプローチし、その個体が近づいてきたところで「ボン」と出してリアクションバイトを誘います。見えバスと対峙させるときはなるべく移動させないように、ラインをシェイクして震わせるイメージですね。ルアーはO.S.Pジグ04シンクロ。カラーはKTダークスモーク/コッパーブレークがベース。ウィードエリアならKTダークスモーク/コッパーブレーク。水深がある場所、もしくはベイトに絡めて食わせるならKTダークスモーク/ブルーブレークを使い分けます。

竹内一浩

Kazubiro Takeuchi

バスの目線より上で長くともどめる

ボートから釣りをしていると、バスを発見したとき、向こうからもこちらが見える間合いになってしまいます(ボートが進んでいるため)。なので見つかってしまう前にアプローチすることが重要。ボクが使うのはドライブスティックフット。セット方法は問いませんが、ノーシンカーでバスの目線より上に長くともどめておくことが要求されます。アプローチはバンク側へ。バスがエサを追い込むイメージですね。あとはみなさんご存じの、自発的アクションで誘ってくださいますよ。

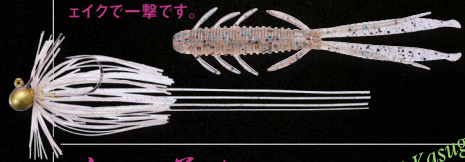


浦川正則

Masanori Urakawa

ボトムと中層で食わせ方を使い分ける

ボクが見えバス相手によく使うのはO.S.Pジグ04シンクロ+ドライブシュリンプ3インチ。カラーはコーストシュリンプです。ボトムで細かなシェイクを入れるのもよし、素早い逃がしのリアクションもよし。バスが中層にいるのであれば、ラインを引つけて水平姿勢を保持したままのシェイクで一撃です。



大塚高志

Takashi Otsuka

着水音に注意したアプローチ

とにかく、バスに警戒心を抱かせないことが大事。見えバスに向かって直接アプローチせず、壁やサンドバーなどに当ててから着水させます。また距離もできるだけとったほうがいいですね。ここでは、バスを驚かせることなく飛距離も出る、ドライブクローラー3.5インチを使用。カラーはエビミノ。亀山湖で非常に反応がいい一色です。



川上記由

Noriyoshi Kawakami

静かに入れてバスに気づかせる

見えバスに対して少し離れたところに入れて、バスに気づかせることが大事。ルアーはドライブクローラー4.5インチ。ネコリグで使用します。



本田賢一郎

Kenichiro Honda

バスの目の前で素早くトゥイッチ

ボクの場合はドライブクローラー4.5インチで、見えるバスが浮いている場合にはノーシンカー、ボトム付近ならジグヘッドワッキーにセットします。フォールやスイミングでバスにじっくり見せて、食わせるときにできるだけ速いトゥイッチをバスの目の前で入れます。キモはとにかく狭い範囲で素早く、です。



松村 寛

Hiroshi Matsumura

通り過ぎるときに「ビッと」動かす

カズミの見えバスに投じるのが、ドライブスティック4.5インチのコーストシュリンプ。ノーシンカーでバスの泳いでいく方向にキャストしておき、通り過ぎるときに「ビッと」動かす。これで食わせます。



見上祥太

Shota Mikami

最後の手段はライトキャロ

いろいろ試しても食わないときに入れるのが、2g前後のシンカーを使ったライトキャロ。バスの目線上でふわふわと漂わせるように動かします。ここではマイラーミノー2.5インチかHPシャッドテール2.5インチを使うのですが、このリグで異常な反応を見ることがありますよ。



春日善行

Yoshiyuki Kasuga

バックスライドで食わせる

ボクが見えバスに投じるのは、ドライブスティックの3.5インチ。カラーはスモークベーパー/コッパーブレークです。ノーシンカーのバックスライドセッティングでアプローチすれば食ってきますよ。

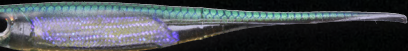


金井俊介

Shunsuke Kanai

バスの背後から水面直下を通す

係留船の下につくバスの背後からキャストし、船の横ギリギリのライン、しかも水面直下をミッドで通ってきます。ルアーはマイラーミノー3.5インチのバックビジブル。1/32ozのジグヘッドにセットして使っています。



金沢俊祐

Shunsuke Kanazawa

バスのポジションでリグを変える

見えているバスがバンク際にいる、もしくは浮いているならドライブクローラーのワッキーリグ。ボトムに意識がいっているなら、同じドライブクローラーをネコリグで。アプローチはなるべく速く、静かに。これ、キホーンです。カラーはグリーンパンプキンベーパーかコーストシュリンプがおすすめです。



茂手木祥吾

Shogo Motegi

流れに身を任せてバスの眼前に送り込む

ボクのサイトでのおすすめは、ドライブカーリーのワッキーリグ。リザーバーのインレットや川の流れの中でナチュラルドリフトさせ、ラインテンションを少し張ってバスの目の前に流します。しっかり水をかむボリューム感が、流れの中で非常に魅力的でバスのスイッチを入れてくれます。ボディの滑らかな動きとテールの細かなバイブレーションは最強です!



三宅貴浩

Takabiro Miyake

バスに気づかせるように引く

まずは見えバスの視線の外に、i-Waver74 SSSをキャストし、相手に気づかせるようにトレースします。これに反応しても食い切らないときは、ドライブスティック3.5インチでフォロー。とにかくバスをよく観察することが重要です。



宮本洋平

Yobei Miyamoto

スパイラルフォールが食わせの決め手

バスの進行方向の2~3m先に、0.4gのシンカーを入れた(写真の赤線部分)HPシャッドテール2.5インチのオフセット仕様をキャストします。このとき、頭下りのスパイラルフォールをしますが、やる気のあるバスならビュンと飛んできて口にします。決して意図的に動かさないことが重要です。

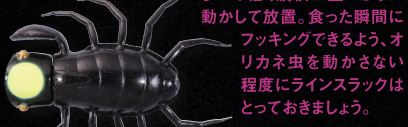


折金一樹

Kazuki Orikané

いきなり投げずにはまずは観察

バスを見つけたら、まずはその行動を観察します。泳ぐ方向が一定の場合、進行方向の2~3m先にキャスト。変則的な泳ぎの場合は、バスの横方向1.5mぐらい、もしくはそのコースの斜め前方に入れます。バスの手前1mぐらいで軽く波紋が立つように動かして放置。食った瞬間にフッキングできるよう、オリカーネ虫を動かさない程度にラインスラックはとっておきましょう。



北田朋也

Tomoya Kitada

反応を見せるまで何度通す

ボクのサイト必釣りアイテムはマイラーミノーの2.5インチ。これをジグヘッドにセットするのですが、ウエイトは0.9~1.3gまでをバスがいる水深に合わせて使い分けます。見えバスの後方、もしくは横方向から口の近くを通すのですが、反応しなければコースを変えて繰り返しアプローチすることで食ってくださいます。カラーはワカサキフラッシュ。ブルーギルが多いところではコギルも効果的です。



北山利通

Toshimichi Kitayama

強烈アピールで引き寄せる

大量のスプラッシュと捕食音に極めて近いポップ音、さらに一点集中ドッグウォークで奏でるラル音によって、警戒心の強いクリアウォーターの見えバスに、強烈にアピールしてバイトに持ち込めるのがYAMATO O.S.P SPEC2です。ぜひお試しください。

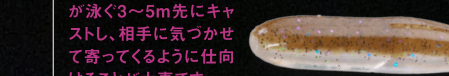


山岡計文

Kazufumi Yamaoka

バスの目線に合わせたアプローチ

サイトで最も重要なのは、ラインやフックの存在を消すこと。その違和感をかき消すほどの、ベイトフィッシュライクなルアーを使用することが必要となります。それがHPミノー3.1インチです。アプローチはバスの目線に合わせてすることが大切。バスが目線より上を意識しているときはノーシンカー。少し深めのレンジで目線がボトムを向いているようならジグヘッドがショートリーダーのダウンショット。バスが泳ぐ3~5m先にキャストし、相手に気づかせて寄ってくるように仕向けることが大事です。



三村和弘

Kazuhiro Mimura

多彩な食わせができるのが強み

まずはそのバスをじっくり観察して食わせどころを見極める。ここで使うのはドライブクローラー、3.5インチからときには9インチまで、バスのサイズや反応に応じて使い分けます。基本的にはワッキーリグ。障害物絡みならオフセットフックもあり。ゆっくり引いたらボディが揺らめき、フォールで自発アクション。そりゃ、釣れるに決まっているや〜ん。

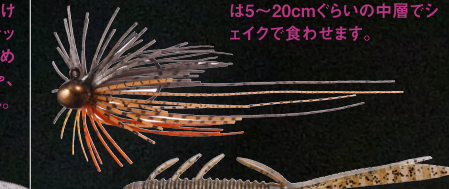


山添大介

Daisuke Yamazoe

ちょうちんもしくは中層でシェイク

O.S.Pジグ04シンクロ3.5g+ドライブシュリンプ3インチを、見えバスの近くのカバーでちょうちん。もしくは水面下は5~20cmぐらいの中層でシェイクで食わせます。



鈴木隆之 × 相模湖

鈴木隆之のサイトは大きく分けて2タイプ

この実釣取材の直前に行われたJB TOP50弥栄湖戦においても、得意のサイトフィッシングで初日、4550gを持ち込み6位につけた鈴木隆之(以下、タカユキ)。果たしてタカユキの最大の武器であるサイトフィッシングは、相模湖のバスにどこまで通用するのだろうか。

タカユキのサイトは大きく分けて2つ。まずは見えている個体に対してルアーを投じる、いわば直接的に狙うサイト。そしてもうひとつはいるであろうスポットにサーチベイト的なルアーを入れ、その存在を目で確認する。そして、そのバスがどういった行動をとるのかを見極めながら、次の一手を講じるというもの。

今回の相模湖は直前に気温が急激に上昇した影響で湖面にアオコが発生。その濁りが蔓延し、なかなかバスの姿は目で確認できない状況。事前に得た情報から、最有力と目していた秋山川上流域もその例に漏れず。途中、アオコの下にうつすらと見える魚体を目で捉えたものの、その動きは産卵行動であると判断されたため、手を出すのは自粛した。

秋山川を早々に見切り、桂川を経て吉野ワンドへ。ここもアオコの濁りに阻まれ、バスの姿を確認することはできず。

開始早々に、相模湖の洗礼を浴びるかたちとなったタカユキ。果たして、次にとる行動は……



タカユキがバスを見つける際に注目するのは色。タカユキの目にはバスの姿は水中でグリーンに映るという。明らかにボトムとは違う色に注目するところからサーチをはじめののだ。偏光レンズはイースグリーン(TALEX)を採用

「ボート店(柴田ボート)の方から聞いた情報では、本湖のほうが水がいいかも、とのことでした。とりえず、本湖のめばしいエリアを回ってみます」

風が本湖(国道下あたり)から桂川方面に吹いていたこともあり、その影響でアオコの濁りも流されているのではないかと読みを見せたタカユキ。国道下につらなるワンドから、1号区へ向けてボートを進めた。

その読みは、決して外れてはいなかった。川筋に比べると濁りは緩和されており、さい先よく見えバスを発見。インレット最奥のシャローでエサを求めてうろろしていた個体に対してタカユキは、その回避ルート上に先回りするようにHPシャッドテールのダウンショットをキャスト。何もせずただ待っていると、それに気づいたバスが自ら忍び寄り、ためらうことなく口にした。

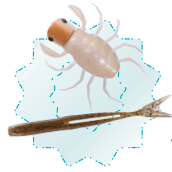


バスがどう動くのかを観察し、回避しているのであればそのルート上にルアーを入れる。人為的なアクションは与えず、バスに自然に気づかせるのがキモ

サイズは30cmそこそこではあったが、泳いできてルアーを口にし、その後、抵抗を見せて沈船の下に潜り込んだ。しかしなんと慎重にラインをたぐり寄せてキャッチするという一連の展開に、タカユキの興奮もやむことがない一匹であった。

相模湖ファーストバスをキャッチしたことで、波に乗ったタカユキ。バスの姿は見えないものの、ここにはいるだろうというところではオリカネ虫をキャスト。白い蛾が

はじめての湖に サイトフィッシングで挑む



舞う姿がたくさん見られたため、迷うことなくアメリカシロヒトリをチョイス。あえてラインを枝などに引っかけて、いわゆる「ちょうちん」で水面を叩くようにサーチした。



水面に落ちてもがいていた白い蛾。これが多く飛んでいたため、タカユキは迷わずオリカネ虫のアメリカシロヒトリをチョイス



オリカネ虫は枝などにラインを引っ掛けて、ちょうちんで使用。混み入った中に入れ込んで、高確率で回収できるのがタカユキのお気に入りの理由

「ちょうちんにすることで、オリカネ虫が手前に寄ってこない。一点でシェイクできるのは本物の蛾のようです。これがちょっとでも横にズレるような動きを見せると、バスはまったく食わないんです」

こうしてサーチし、出てきたバスに対してはノーシンカーやダウンショットを投入。ときにはHPシャッドテールのテールをカットし、イモ状態にしたノーシンカー

これまで、数々のトーナメントにおいて、得意のサイトフィッシングで成績を残してきたO.S.Pプロスタッフの鈴木隆之。自身はじめてという関東屈指のメジャーフィールド、相模湖においてサイトフィッシングだけでどう攻略するのか。その一挙手一投足を追った――



に、ブラックレーベルプラス671MLが大きくしなった。

PEラインの1号にリーダーはフロロの10lb。とはいえ、オーバーハングする枝葉に

巻きかたては安心できない。一匹目と同じようにラインを掴み、ゆっくりとたぐり寄せる。オーバーハングの中でしっかりとその下あごを掴んだ個体は、48cmの見事な一匹であった。「このサイズが出ればいいんじゃないですか!? オリカネ虫がいいところに掛かっていますね。食ったのがわかった瞬間の、即アワセでした」

オリカネ虫を見に来たバスが口を開き、その中にきっちり入ったことを確認してからフッキング。同時に、口を開けた瞬間にバスのエラ付近が白くなるのも見逃さ



的確なタイミングでフッキングが決まったことを証明するように、フックはがっちり上あごに刺さっていた



この枝の中をラインが通っていたため、ファイト中に絡んでしまった。しかし慌てることなく、自分でも「落ち着け」と言い聞かせながらラインを慎重にたぐり寄せた



HPミノー3.1インチのノーシンカーで1匹追加。「小さく見えても釣ってみると、意外とサイズがあったりするんです。これもキーパーサイズですね」とタカユキ



i字引きからダウンショット、ミドストなど、さまざまなリグに対応。見た目もさることながら、各リグでの動きまでもベイトフィッシュを忠実に再現したHPミノー3.1インチ

なかった。見えバスのサイズにたじろぐことなく、慌てず落ち着いてフッキングを成功させたタカユキの技と経験が冴えた一匹だったと言えるだろう。

その後もサーチを繰り返し、ときに見えバスと対峙するものの、風向きが変わってアオコの濁りが再び広がった影響か、いまいち反応がよくない。HPミノー3.1インチのノーシンカーで25cmクラスを一匹追加し、実釣を終えた。



写真の位置にフックをセットすると、ゆっくりとリールを巻くだけで斜め前方に滑るように進む。「まっすぐのi字引きにスレたバスに効果的です。バスの反応を見ながら攻め方を変えるのもサイトでは重要ですね」

「悔しいですね。状況があまりよくなかったとはいえ、もう少し食わせられたかな、と。この借りは必ず返します。いつかリベンジに来ます!!」

最後のコメントで悔しさをにじませたタカユキだったが、はじめての湖。しかも関東屈指のメジャーレイク、相模湖において48cmの一匹を手にしたという結果は、堂々と胸を張れるのではないだろうか。

サイトフィッシングを経験すれば あなたの釣りのレベルが トータルで 上がる。

自分の目で見たバスフィッシングは 見えない場所での釣りにもつながる

ひとりで表現すると、サイトフィッシングは自身のレベルアップに最適な釣りである。例えばクリアウォーターにおいて、バスはカバーのどんなところにつくのか。自分が投じたルアーに対して、どう反応するのか。そのルアーを口にした瞬間、ラインからロッドを通して、バイトはどのように自分の手元に伝わるのか。ここで得たすべての情報は経験値となって自分の中に蓄積され、ひいてはそれが、水中が見えないマッディウォーターの釣りでも生きてくる。

もちろん、見えているバスに対して、やみくもにルアーをキャストしては、その経験はまったく意味をなさない。

まずはバスから見えない位置にポジションをとる。太陽光を背中に受けない。バスに気づかれたなら、一度、その場を離れて見えない位置からアプローチする。

ルアーを投じるときも、バスをめがけて直接的なアプローチはしない。風や流れを利用して、バスの視界の外から送り込んでいく。ときにはオーバーハングの枝などを利用して、ラインを水につけないアプローチが有効になることもある。また、フロロカーボンラインを沈ませてボトムにつけ、バスの目線よりも下に入れる。あるいは底にある岩や水生植物などにルアーを隠しておいて、そこからジワジワとバスの視界内に入れていく。着水音もなるべく消すことが基本だが、ときにスキッピングでバスの視界に入れることで、小魚が水面を跳ねるような演出をすることだってある。

このようにさまざまなアプローチを試し、バスがそれに対してどう反応するのか。アプローチしたあとの、バスの一挙手一投足に注目。こうした経験は必ず、己のレベルアップにつながる。

バスの行動を読み、自分が投じたルアーに対してどういう反応を見せるのか。この一連の流れが見える興奮は、トップウォーターゲームに類似している、いやもしくはそれ以上かもしれない。

だからサイトフィッシングはおもしろい。

by 並木敏成

*Toshiki
Naminaka
Bass or No*